




普及活動情勢報告（令和5年11月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

ユズの出荷検討会	～JA高知県四万十ユズ生産部会及びゆず研究会～
 <p>出荷検討会の様子</p>	<p>10月25日、JA高知県四万十ユズ生産部会及びゆず研究会の出荷検討会が開催され、生産者35名が参加しました。</p> <p>検討会では、果実のサンプルを見ながら出荷規格の確認を行い、普及所からは、礼肥の施用時期や冬から春にかけての作業のポイントについて説明しました。</p> <p>生産者からは、「早い礼肥は収穫開始時期の遅れや腐敗果の発生を助長し、遅い礼肥は耐寒性や樹勢の低下につながる事がわかった」「礼肥の施用適期を逸することのないように注意したい」といった声が聞かれました。</p> <p>普及所は、年明け後に整枝剪定指導し、ユズ産地の生産安定化を図ります。</p>

農福連携を進めよう！	～ピーマンの出荷調製作業体験会をマッチング～
 <p>打ち合わせの様子</p>	<p>11月1日、四万十町の就労継続支援B型事業所「あさぎり」で、ピーマンの袋詰め作業体験会を開催しました。</p> <p>この体験会は、事業所でピーマンの袋詰め作業受託の可能性について検討するため普及所がマッチングしたもので、出荷規格など作業内容の確認や実施時期について意見交換を行いました。</p> <p>農家からは「以前から他地域でこういった取り組みがあると聞いていたので、四万十町でも是非進めて欲しい」、事業所からは「来春から取り組んでみたい」という声がありました。</p> <p>普及所では、今後も農福連携推進に向けたマッチング支援を行っていきます。</p>

GAPへ取り組むために	～JA高知県興津園芸部通常総会～
 <p>総会の様子</p>	<p>10月30日、JA高知県興津園芸部通常総会が行われ、ミョウガ・ピーマンの生産者25名が出席しました。</p> <p>総会後の関係機関からの情報提供として、普及所からはGAPの概要と、県が進めるGAP点検シートの目的や主な項目について説明しました。</p> <p>生産者はスライドやリーフレットを見ながら、GAPの必要性について理解を深めていました。</p> <p>普及所は、今後もJAと連携して興津園芸部版の点検シートを作成し、継続してGAPの取り組みを支援していきます。</p>